

# 何になるかではなくて、何をやるか！？

令和7年12月23日

## 2025年、生成AIが社会実装した歴史的な転換の年？

いよいよ、2025年も終わりに近づいてきた。今年の1文字「熊」がニュースになり、マスメディアやインターネット上などでは、「2025年を振り返る」等の企画が目につくようになった。

右下の写真を見ていただきたい。知っている方も多いと思うが、東京、大阪に展開している株式会社 LAB TOKYO（ラボ東京）(<https://www.labtokyo.co.jp/>)での写真である。これは、絵で書いたものが瞬時にデジタルの中で動き出すビジュアルの世界が実現しているというものである。子どもたちを中心に、近未来の体験をしてほしいと、企業がアミューズメントパークとして展開している。

生徒、保護者の皆さん、教員の皆さんにとって、どのような1年だったのだろうか。個人的には2025年、富士宮という地域、学校をとっても好きになった1年であった。そして、同時に生成AIに触れる機会が各段に増えた年だった。おそらく、2025年は、歴史を振り返った時に、生成AIが社会実装した年となる転換点だったであろうと思う。アメリカの学者が2013年に2030年には仕事の半数以上は当時の仕事はなくなっていると予測したが、それより早いペースでグローバルにも、ローカルにも変化が進んでいるのだろう。私は生成AIに詳しくはないが、その構造上、社会実装すればするほど、進化が早く、シンギュラリティは目前なのだろう。

さて、生徒は1年間を経て、3年生は卒業目前、1、2年生は上位学年へと上がる。3年生は、それぞれ進路先を決め、「大学生、短大生になる（もう少し言えば、例えば、静岡大学生になる。常葉大学生になる。など）」  
「社会人になる（〇〇企業の社員となる。）」「専門学校生になる」と、新たなステージに進む準備をする。私は、この時期になると、主に、学校を卒業していく生徒に投げかけてきたことがある。それが、あなた、これから「何をやるの?」（「何をしたいの?）」という問いかけである。

それは、大人も同様であり、例えば、私は「校長になる」ことに意味はなく、「何をやるか」に意味がある。そして、そのためには、もっと自由度を高め、自分自身の容量をもっと大きな器にする工夫、すなわち、体験を増やしたり、新しい自分を見つけるための選択肢を増やしたり、これまでに出会わなかった人と出会ったりということをしておくことが必要だと思っているのである。新しいステージは、新しいステージなりの課題があるだろうし、それに触れたいと思う好奇心と意欲を持っていないとつかめない。それは、「今」ないものが突然現れたときに、どう対応するのかという、「対応力」の育成にもつながる。さあ、2026年、あなたは「何をやるのですか」



## 今年の1枚！

学校に関する写真の内、個人的に、お気に入りの写真を選びました。皆さんの、今年の1枚はどんな写真ですか！？



## 子どもは「誰と遊ぶか」 [https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/bc/education/2023/01/20\\_5911.html](https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/bc/education/2023/01/20_5911.html)

ある勉強会で、次のデータを紹介された。2015年株式会社ベネッセホールディングスの経年変化をおった調査で、「幼稚園・保育園以外で「友だち」と遊ぶ幼児、20年間で56%から27%に半減へ」というものである。これは、成長が著しい幼稚園・保育園時代にフォーカスをあてた調査で、幼稚園・保育園以外では、「遊ぶ相手」は母親が55%から86%に増加し、園以外の友だちと遊ぶという経験値は低下傾向にあるというものだった。つまり、幼児期から親子の関わりが一層密になっていることを示すというものである。このデータ、2020年には、さらにその傾向は進み、もう一つ変化したこと、2015年に比べて、母親の育児負担感、不安感は増加し、「子どものために我慢」が減り、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が増加し、意識変化が見られるということである。

このデータについて、私はその通りだろうと思うとともに、母親に押し付けていた関わりを、学校というコミュニティ(先生という意味ではない)や、社会というコミュニティ(漠然とした社会ではなく組織化されたもの)がもっともっと持たなければならないのではないかと思うのである。それは、現在、スマホの所持年齢が、低年齢化しており、ある統計では、使い始めは、今や2歳で、所持は10歳まで約50%に到達するということからくる直接体験の減少にもつながっていく。社会の変化は止めることはできない。この通信で投げかけたい「何をやるか」は、どうしても人と関わることが多くなる。その点でも、生徒のみなさんには、「何をやるか」を大切にしてほしいのである。この調査、2022にも行われているが、経年変化を追っている。2025年は実施されるか定かではないが、ぜひ、アンテナを立ててほしい調査である。

## 主体性と自主性の違いと「何をやるか」

今年、さまざまな場面で、主体的な行動をとろうという投げかけをした。生徒エージェンシーという言葉も紹介した。そして、よく主体性と似た言葉で、自主性を使うことも多い。私は、学校としては、主体的な行動にフォーカスしている。難しくアカデミック(大学など)で使われる定義は置いておいて、プロ野球の千葉ロッテマリーンズで監督をした吉井理人さんが言っていたことがわかりやすい。

主体性:自分自身の意思や判断に基づいて行動を決定する(様子)。

自主性:当然なすべきことを、他人から指図されたり、他人の力を借りたりせずに、自ら進んでやろうとする(様子)。『機嫌のいいチームをつくる』(Discover2 | 2024)より

もう少し、説明すると、主体性は、「集団」としてのゴールイメージがない。目指すところは、理念である。その中で、目的を見出したり、課題を設定したりする。自主性には、「集団」としてゴールイメージがある。その中で、何が必要なのか考える。これらの違いがある。

さて、教育の現場は、多様性を包摂して、すべての生徒がそれぞれの成長をしていくことを目指す。学校は、意図をもって教育を行う必要がある。どちらも大切な力(付けたい力)であることは間違いない。私は、「何をやるか」を目指したい。生徒のみなさんは、保護者のみなさんは、どういう力を学校で育成してほしいですか? それに応えられるプロフェッショナル度の高い学校、教員集団でありたいと私は思っている。

## 2026年干支は「丙午」(ひのえうま)

丙午は、火の要素を二重に持ち、情熱や強い生命力を象徴するそう。江戸時代の逸話の迷信などで出生数が減少すると言われてきた。今は、そのような迷信に囚われないとは思いますが…。富士山に、生徒、保護者、関係者、教職員の健康を祈りつつ、来年も本校にとってよい年になるよう願って、今年最後の通信とする。皆様、よいお年をお迎えください。

